

令和4年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 黒崎中央 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和4年4月19日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語、算数、理科)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語、算数、理科)

教科に関する調査(国語、算数、理科)

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

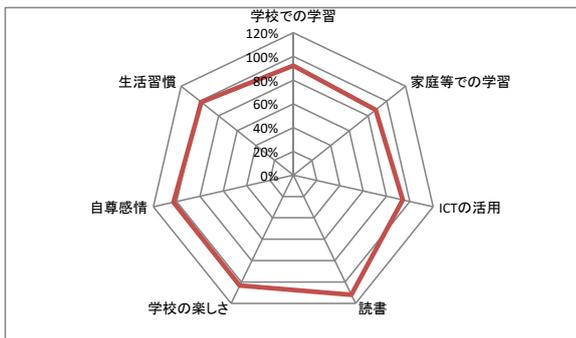
(1) 全国・本市の学力調査(国語、算数、理科)の結果

本年度の結果	国語		算数		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.9	64	9.8	61	10.4	61
全国	9.2	66	10.1	63	10.8	63

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	「思考力・判断力・表現力」の観点における「話すこと・聞くこと」においてやや課題がある。特に、問題の内容に応じて自分の考えを作り、条件に合わせて書くことに課題があった。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よってきた問題	登場人物の相互関係について、描写を基に捉える問題	
	努力が必要な問題	互いの立場や意図を明確にしなが計画的に話し合い、自分の考えをまとめる問題	
算数	全体的な傾向や特徴など	「数と計算」「図形」領域において力が身につけている。特に、問題に応じた解法を考え、その理由を説明する力がよく身につけている。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よってきた問題	加法と乗法の混合したポイント数の求め方を解釈し、ほかの場合のポイント数の求め方と答え方を記述する問題	
	努力が必要な問題	百分率で表された割合と基準量から、比較量を求める問題	
理科	全体的な傾向や特徴など	A区分「粒子」領域において課題がある。特に、実験器具に対する理解やその正しい使い方を答える問題に課題がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よってきた問題	水が水蒸気となって空気中に含まれていることを答える問題	
	努力が必要な問題	メスシリンダーの名称や正しい使い方を答える問題	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ・各教科で学んだことを生かして、自分の考えまとめ表現する機会を学習の中でもっと設定していく必要がある。 ・平日の家庭学習の時間がやや少ない。また土日においても、2時間以上学習する児童は少ない。 ・読書好きの児童が多く、1日1時間以上読書をする児童が多い。 ・「学校の楽しさ」「自尊感情」において、学校や友達と協力することに楽しさを感じる児童が多い。また、全児童が、人の役に立つ人間になりたいと考えている。 ・平日にスマートフォンでSNSや動画視聴を1時間以上している児童が多い。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

・各教科において、問題や事象に対して自分の考えをもち、追究し、他者と関わり合いながらまとめていく授業づくりを徹底する。
 ・「学習に用いる器具や道具」の名称、正しい使い方について、実際に使いながら理解する機会をしっかりとつくる。

② 家庭生活習慣等に関する取組

・家庭学習の時間を確保するために、学校から出す宿題や課題の量や質を見直す。
 ・SNSや動画視聴の時間削減のために、1日30分以内の利用時間を旨を伝える通信やホームページコーナーなどを作成、発信する。